

**人生をかけて！ 働く喜びを伝える  
 北洋建設（株）代表取締役 小澤輝真**

職親（しよくしん）プロジェクトという存在を知っているだろうか。日本財団が行っている、少年院や刑務所出所者の円滑な社会復帰を行うための就労支援策なのだ。働く場所があることで再犯防止に繋がりが、みんながみんなを支えるという目的で関西からスタート。2013年12月全国展開を機に、北海道で唯一参加した札幌市東区にある北洋建設株式会社代表取締役小澤輝真氏に仕事を通じた社会貢献に対する熱き思いを聞いた。

**創業の原点**

今から42年前父親がとびの会社で働いている時に親方から独立しろと言われて北洋建設を起しました。いきなり独立したのはいいけれど働き手がいなくて。亡くなった父に真相は聞くことが出来なかつたけど、最初は止むに止まれず創業時から元受刑者を雇っていたのではないかと思えます。日本財団は1年前から始まりましたが、はるか以前に民間で取り組んでいたというのは先見の明があつたからだと思います。しかも自分で受入れしていたため、ノウハウも金銭的な支援も一切ない。それどころか隣近所の人たちから「お前の会社は犯罪者ばかりいる」と苦情を言ってくる始末です。しかし、外の清掃や冬の除雪など自社だけでなく周りに広げていくうちに、お酒など持つてきてくれるようになり、逆に感謝される関係に変わっていききました。

ん。しかし、よくよく話を聞いてみるとそれぞれ事情がある。一端を紹介すると



警察に捕まった。裁判官にも同情は出来るが犯罪は犯罪と言われます。彼らは極めて普通の人たちですが、刑期を終えた時にはほとんど働き先が見つかりません。そのため全国の刑務所から直接電話がかかってくるんです。「こういう人がいるんですか」と言われ、日本中面接に行きます。少年院に入っていた子たちも暴走族に入っていたり背中一面に入れ墨を入れている人、共通しているのは親に心底怒られたことがない。愛情に飢えているんです。出所した時は、10代でいきがってしまいますがまずは挨拶から教えます。「お前なんだ。挨拶もできないのか」と真剣に怒ります。段々と良くなると思えます。「おー。凄く良くなつてきているなあ」と言うとうと嬉しそうに答えます。人は皆、同じなんです。父は早くに亡くなり

もともと大手飲食店の店長をやっていたが違う飲食店に引き抜かれて行ったら、給料をくれぬ。家賃も払えないため出前に行つた際のお金で支払ったら逮捕された。会社に入ったら怖い人ばかりで、辞めたいけど辞めさせてくれない。しかたないのでATMを壊して

その後母が社長を務めていました。社員が不祥事を起こして警察に呼ばれ、本人と会うなりいきなりビンタをされました。しかも泣きながら。警察官もビックリして、なだめながら諭したそうです。母は親として接しているんです。そんな社員が一杯いて、毎年5月の

母の日はカーネーションで溢れ返っています。これまで、使用した元受刑者の社員は300人を超えています。なぜそんなに多いのかというと、2・3年したら辞めていいと言っているんです。しっかりと手に職をつけて、ある程度一人前になったら、地元に戻りたくなくなります。その時に「北洋建設で働いていました」と言えと教えています。次に働く相手先の信用度がガラッと変わります。その瞬間から社会から普通になり入ってもらえるようになります。だからといってボランティアで受入れてくれるわけではありませぬ。互いの人生をかけて、本気でぶつかり合う。するとどんどん変わっていく。濃い付き合いが人として思いやりの力を持つる人材に育ち、会社の活力に繋がっていきます。辞めた後、結婚し子どもが生まれ、先代の社長である母に一番に見せたかったと言つて来てくれた時はやつてて間違つていなかったと思ふ瞬間です。

**病気に負けない、夢は続く**

2010年から厚生労働省が勧める中間的就労のモデル事業所として活動も始めました。簡単に言うとニートや障害者の方で、本格的に会社で働くことが出来ない人たちの雇う制度です。資材センターで働いていますが、作業が早くて丁寧なんです。やらせてみて初め

てわかりました。僕自身も難病である「脊髄小脳変性症」にかかっていたので、病気がたたくから気づいたことがなくさんあります。3年前に発症しましたが、ベストセラーになった1リットルの涙の主人公である木藤亜也ちゃんと同じ病気です。既に言葉がわかりづらくなったり、普通に歩けなくなってきたり、普通に行けなくなってきたり、話せなくなったり、寝たきりになり、死に至るといふ病気です。大脳は正常に機能しているため知能には全く障害がない。だから何が起きているのか明確にわかっているというやっかいな病です。

僕自身若い時やんちゃだったため、高校を中退しました。その後、時間をかけて高校、大学と卒業し、現在は日大の大学院に通っています。既に卒論を書き上げました。テーマはズバリ「職親、協力雇用主、更生保護における再犯等の考察」です。担当教授から先例がないから「小澤君、君が日本における先駆者になれ」と励まされています。余談ですが、東京ドームなどで開催されているジャニーズのコンサートの設営は全て僕の会社で請け負っています。仕事や勉強として職親の活動含めて今の僕があるのは全て札幌青年会議所で教わりました。残された人生、いつまでなのかわかりませんが、命ある限り全力で駆け抜けます。